



市内に暮らす外国人市民の状況

市内には今年5月末現在で56カ国7,485人の外国人市民が暮らしています。近年では研修や技能実習・留学などのさまざまな理由で日本に来る人が増えています。

**地域で広げよう
多文化共生の輪**

シリーズ206

**高めよう！
人権意識**

心のかけ橋

問 人権推進課
(☎928-1006)

私たちの日常生活の中で、外国人市民と接する機会が少ないという人が多いかもしれません。また、接するときは言葉の壁が大きな問題となり、どうすればよいか分からず、戸惑ってしまう人も多いのではないのでしょうか。

また、外国から来て間もない人も日本の生活の中で言葉の問題や文化・習慣・宗教の違いに戸惑いを感じています。日本の生活に慣れていく人にとっては当たり前のことでも不安を感じる要因になることがあります。

今年、市内に住む外国人市民を対象にアンケートを行いました。その中で、「近くに住んでいる日本人と付き合えない理由」として「きっかけがない(43.1%)」「言葉が通じない(27.6%)」と回答しており、接する機会が少ないことや日本語が十分に理解できない人が多くいることが分かりました。

違いを豊かに

言葉の問題から必要な情報を得られなかったり、文化や生活習慣の違いからコミュニケーションが取りにくかったりすることが生活上の課題として挙げられます。

言葉の壁や生活習慣の違いは決して簡単に解決できるものではありません。

せん。住んでいる地域には守らなければならぬルールもあります。しかし、お互いが多様な文化や習慣を認め合うことが、共に生きる社会を作っていく上では大切なことです。



共に安心して暮らせる地域づくり

文化や習慣、言葉が異なる国の人々が共に暮らしていくためには、まずは相手を知ることが大切です。普段の生活の中で、日本語であいさつをしたり、相手の国の言葉を覚えたりするなど、ちょっとしたきっかけづくりをしてみませんか。

コミュニケーションを重ねることにより、お互いの違いに気付き、理解を深めることができます。同じ地域に住む市民としての結び付きを強くすることに、多様性を認め合える豊かなまちを築いていきましょう。

認め合おう みんな違って あたり前